



玄関を入ると視線は再び外へ！ 室内外の相互貫入である。



堅い壁(RC壁)を切り抜く

この家では、外と内を繋ぐために、堅い壁(RC壁)を切り抜く。R/C壁に切り抜かれたガラス窓は、外と内を繋ぐだけでなく、外の景色を切り抜くことで、外の景色を切り抜くことで、外の景色を切り抜く。



カノピー屋根はつり橋をハイブリッドしている。そのことによる緊張感が住宅本体デザインにスペースを与えている。



洗面脱衣室と浴室を透明ガラスによって、一体感を作り出しています。視覚的相互貫入は、狭い空間には広がりを作り出しています。



W & Wプロジェクトの コンセプト

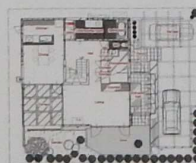
南東面を全部筋違い壁のない開放感にしたい。露出された構造R/C壁が壁の中にある柱に見える。W & Wプロジェクトのコンセプトである。
「アクセスアプローチ」



W&Wプロジェクト コンセプト

当住宅は旧蔵デポ蔵によって開発された住宅団地に計画されたものです。コンスペース・フットパスを持ったゆとりのある敷地は建物の内外の相互貫入を促すことが必然的な家でもあった。都市型コートハウスが外観を併せて内に開いていくようにして、設計範囲内に構造コアをつくり外壁に開く手法をとることになった。建築の3原則「軸・階・梁」を並べた生活したW & W工法は、ハイブリッド工法を採用する事で可能になった。具体的には2m幅のR/Cコアと各辺の平行移動したところに4枚のR/Cの壁を立てる。それらのR/Cの壁と木造梁を繋結することで、耐風力と水平力を受けることとする。よって他の壁はほとんど水平力から解放されたカーテンウォールと同じ扱いにできる。

壁の中に窓が (Window in Wall) から
壁の中に壁が (Wall in Window)



1F

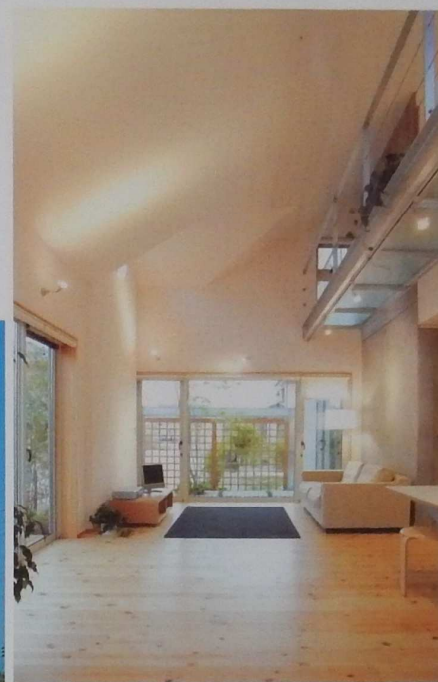


2F



W & W工法

- この工法が意味するものはWindowとWallの頭文字をとって略したものである。
- メーソンリー工法 (組石工法) に代表される構造が作り上げるファサードは大きな壁面に小さな開口部が窓石であった。Wallの中にWindowがあるのである。
- スケルトン工法は自由な開口を持ったファサードを獲得するのに成功した。
- 高層建築は鉄骨ラーメン工法を採用する事により、水平力を集中的に対峙させるコア配達の力を借りることによってそのファサードをカーテンウォールと称したのである。かつて重厚な壁を軽快な表面ウォールとすることになった。
- しかし、このような構造は一般住宅においては、むしろ敬遠されているような風潮でもある。
- 住宅は伝統工法に新要素を加えたり、新要素そのものの壁式 (パネル工法で表す) 2つの大きな構造に改造されてしまっている。(勿論、近年では、金物と集成材を使用することで鉄骨ラーメン構造を獲得してきた事も少なくないことである。)
- スケルトン工法の新要素の存在は結構住宅レベルの空間を自由に得ようとするときには難題になることとなる。
- 特に、将来にわたるライフスタイルが変り当初の予定した機能を変更しなければならぬ事がある。そんな時に構造の力 (象徴的にWallと称す) と空間の力 (象徴的にWindowと称す) が夫々に自分の責務を果たしてくれることで建物の寿命を長生させてもらえるのではないだろうか？



リビングに入るとやはり正面の中庭に目が吸われる。中庭には跳うような格子戸が用意されている。

中庭・コートに向けて開く。



2階は2m幅のR/Cコアと各辺の平行移動したところに4枚のR/Cの壁を立てる。それらのR/Cの壁と木造梁を繋結することで、耐風力と水平力を受けることとする。よって他の壁はほとんど水平力から解放されたカーテンウォールと同じ扱いにできる。



ダイニングはリビングからの中庭・コートを直行した視線で眺めることができます。ここも内外の相互貫入を促しているのです。



リビングの大きな空間。書斎の空間にはその反対として、狭く低い3段入の書斎空間を設けることで、より集約することができたのです。